

体験して学ぶ！ 体験して深める！ 私たちの暮らすベネズエラのことを学ぶ (校外学習)！
学習発表会に向けて、全校が動き始めました！ 最高のものを発表するために…



■ 小学部 1 年生～4 年生が近くのスーパーマーケットへ校外学習に行きました！ ■

10 月 3 日 (月) に小学部 1～4 年生が生活、社会の学習の一環で、アティエジョのスーパーマーケットへ校外学習に行きました。1 年生は自分でお金を使っての買い物体験 (写真左 2 枚)、3・4 年生は、店員さんに店の工夫をインタビューしました。(写真右 2 枚) どちらも充実した学習ができました。



■ 学習発表会に向けて始動しました！ ■

今月末の学習発表会に向けて、全校スペイン語劇「かさじぞう」の練習がスタートしました (左)。また、スローガンの看板作成も始まりました。始動しました。



■ 寄贈していただきました！ ■

学校に多数の寄贈がありました。家庭科室、C P 室、用務員室などが充実しました。

カラカス日本人学校をもっともっと知り、もっともっと好きになるために… (その 132)

カラカス日本人学校はみんなの大切な、大切な宝物です！ NO. 27

今から 50 年近くも昔の話ですから、この 10 周年記念誌「アビラ」の記録が残されていなかったら、この話は永遠に人の記憶の中にだけに埋もれてしまっていたでしょう。記憶には、忘れてしまってもいい記憶と忘れてはならない記憶があります。語り継がなければならない記憶があります。それが学校の沿革史です。

■なんと2ヶ月後に補習校が誕生した！■ 「…昭和 43 年 (1968 年) 7 月 29 日、設立準備をはじめから、わずか 2 ヶ月後、ここにカラカス日本語補習校が誕生した。開校式と第 1 回入学式は、広田大使夫妻出席のもとに行われた。海外にあって、日本内地での入学式を味わえない新 1 年生の胸には、大きなりボンと名札がつけられた。質素ではあるが、先生はもとより、出席した父兄全員の胸の中には、補習校が出来たという喜びと感謝の気持ちが渦巻いていた。」まるでドラマを見ているような、そんな感動がこの様子を読む 50 年後の私たちに伝わってきます。36 年前に別の日本人学校ではありますが補習校に関わったことがある私には、その様子を想像することができます。月曜日から金曜日まで現地の学校に通っていた子どもたちにとって、日本人ばかりの集団の中にいられる安心感は、何物にも代えられないものでした。今ももちろんそんな環境の中に入りにくい時代でした。日本語で話せる仲間がいる、そのことの喜びの大きさは恐らく当時の人でなければ、理解できないことだったでしょう。そのことが分かる児童の作文が残されています。「…本当は日本の学校に行きたいけれど、カラカスは日本のような全日制の学校がないので、月曜日から金曜日まで現地の学校に行っています。土曜日になると楽しくなります。それは、補習校があるからです。みんなと遊べて、みんなと会えて、みんなとしゃべれるからです。でも、補習校は 1 週間に 1 回しかありません。ほくは、カラカスにも全日制の学校ができて、みんなと会えて、運動や勉強が出来たらどんなに楽しいだろうと思います。早くその日が来るのを楽しみにしています。」世界中にこんな思いを持った子どもがいたのがこの 1970 年頃でした。(写真：土曜日だけ現地校を借用する) つづく

